

いつかばったり (春版)

作・広田淳一

いつかばったり

今までいろんな人たちと出会ってきたけれど、

まだ出会ったことのない人、

といつのがこの世界には、まだまだ、たくさんいる、

その中には出会ったらきっと楽しい、

とても素敵な、

うまい酒の酌み交わせぬ、

ものすごく趣味の合う、

ずっと一緒にいても疲れないう、

よいな、

そういつ人たちがたくさんたくさんいるのかもしれない。

そんな人たちと、どこどこか、

いつか、ばったり。

期待して、目を閉じる。

コーヒーを飲みながら。

期待して、

ミルクティーを飲みながら。

目を、閉じる。

春の花が好き。

何の意外性もない時期に、当たり前のように咲く、あの、間の抜けた感じ。その、素直さ。

が、好き。

スイセンとか、サクラとか、ナノハナ、ツバキ、ヒヤシンス、パンジー。

そういつ、カラフルな花たちと洋服の色を合わせて外を歩くのが、好き。

だったのー！

こないだ自転車に乗って買い物に行こうかと思って、ふとハンドル握って空を見上げたら、あ
あっという間にサクラの花はもう散ってしまっていて、ああ……ってなって、

「そんじゃ、また一年後」

って、そう言われたよつな心地がして、うあーって。

うあーってなって、大変、遺憾だった。

よく見れば、公園とか、道路とか、ガードレールとか、あまどいとか、スナックの看板とか、
そんなものたちの周りにも散ってしまった花びらがいっぱい、それに私はうかうかと気がつか

はずロタを過ぐって来たわけです、しゅほど左様に、近頃、あたしのアンテナは大変鈍っているようです。

「おんなじなご。」

もしかするより、結構、思いっきり、壊れてしまっところのかもしれない、あたしのアンテナは、

「おんなじなご。」

大変よろしくなご。

これは本当に当たり前のことなだけで、

「出会いたい人とご一緒でも出会えるとは限らなご。」

「なんじとあか……」

「出会いたくもなし人と出会ってしまっじつもおぼえるわけだ。」

「最悪……」

実感としておぼくおぼくご一緒の方が多々うらなただけです、それども、聞くんじおんじおんじおの世には、出会った瞬間に電気が走ったみたいに「わあっ」てなっって、「瞬間が好きになっちゃおうとご一緒のがご一緒。」

男の「おんじお」も、女の「おんじお」も、

女ども、男ども。

「瞬間が好きになっちゃおう。」

「瞬間。」

そっごうご一緒の人がご一緒。ご一緒。

私にも、なんじおなくそれはわかぬ。

「ご一緒あついで。すげえなあついで。」

会ったその日に思っような人はご一緒。いただいた。確かに。うん。

でも、そんなじつは人生の中ではほとんど無い、

だから「おんじお、

なんじお、

ご一緒あついで。すげえなあついで。」

思っっちゃおうじおなごうご一緒「あついで」があるよ、私はご一緒何だも見えなくなっちゃっいで、

「あなたご出会えてご一緒。おんじお。父さな母さなめりがご一緒」

なんて、猪突猛進、バカみたいにご一緒かわれちゃっいで、

「今日まで歩っで来た、何の道に感謝を。」

「ご一緒を思っご一緒ご一緒だ。」

大ゲサ。

なんじお。

大ゲサ。

なんだよねえ。

あとあとになじりあうつもりでいるよ、

「ぶっかしてたな、あゝ時は」

「バッカじゃねえの俺」

と思いつつも「ぶっかして、やっばいなごうごいかませ、真田。
なんだよねえ。」

でも、

かえって、

むしろ、

逆に？

最初会った時には、

なーんかつまらないヤツ、

としか思っていなかった人が、だんだんだんだん、

すっげえ面白く、

ウケる

もう大好きっ

と変化しつつある時も、あるわけよ、

見逃していた何かが、だんだんだんだん……。

って、そういつ「ばったり」も、あるわけだ。

思えば春に咲く花もある日突然に咲き誇るわけではなくって、

だんだんだんだん、

寒い冬かじせと準備していたつぼみが花開いてゆくわけよ、

「こいつだー!」と思った奴がちっとも「こいつ」「じゃなかったとしても、

「こいつじゃねーだろ」と思った奴が意外とだんだん「こいつ」になったりもするわけだ。

わい。

これらの現象を総合して考えてみるに、

もしかしてひょっとして、あたしにはかなり「人を見る目がなう」ってことなるのかもしれ
ない。

なりはしないだろいつか？

うーん……？

そうかもしれない。かもしれない。

もしかして、

そうかもしれない。かもしれない。

ひょっとして、

そうかもしれない。かもしれない。
いや、きつとそうだ。

もはや認めざるをえない。

「あたしには、人を見る目が、ないみたい」
はは。

いや、笑い事じゃない。

やっべ。どこで落として来たんだろう？ あたしの「人を見る目」。

そもそも人を見る目って何？ どんにかして手に入れられるものなんだろうか？

人生経験とかいっぱい積んで、人間観察とかいっぱいして、あるいは、どっかに売ってたら結構いい値段でも買つのに。

人を見る目。

買つな。買つちやうな、じりや。

二十七万までなら出す！

なぜなら、普通運転免許証よりも私は人を見る目が欲しいから！

去年せっかく免許をとったというのに、一回、車庫入れに失敗してブロック塀にお尻をこすつて以来、全くハンドルを握ってないんです。一年にして。ペーパードライバーになった私が今後、車乗るタイミンングを見つめるにはおそろしく一生無いでしょう。

そつすねは、

無傷の私の運転免許は、めでたくゴールド免許になるでしょう。

そつすねは、

無傷の私の運転免許は、何の価値もない、ゴールド免許になるでしょう。

「人を見る目」は、えんじのカラーコンを入れたみたいな鈍い赤色をして、あたしに買ってもらう日をじつと待っている。古びた雑貨屋さんの店頭で、在庫処分で並べられた薄汚れたワゴンの中にそれはあって、何かの間違いじゃないですか？ って感じで「二十七万円」という値札が堂々と貼っつけられてる。

「人を見る目。二十七万円」

そんなはずはない。

でも、

バカげてる。

んなアホな。

でも、あつたらきつと買ひ。

落っこいってたらきつと買ひ。

あーあ。

はーあ。

はあ。

ハー。ハー。
息が白い。
雲が遠い。
風が冷たい。
朝の空気は冷たくて、頬に当たるとちよつと痛い。
マスクでもしようか。

マスクをすると、鼻から入る空気に適度な湿気が保たれて喉がうるおい、風邪の予防にもなり、しかもメイクをしていなくてもあんまり突っ込まれない、と、いい事がいっぱいあるのです。あと、なんか落ち着へうんうん。

電車に乗るときは、マスクと帽子とダテメガネ、それにフードまでがっしり被って一番端っの座席に座りたい。みんな死ぬ。とか思いながら銀色のポールに寄りかかって、じじいへらり鋭気を養いたい。
マスクも邪魔。

帽子もダテメガネもフードもぜんぶ邪魔。
だけど、

邪魔なものたちが私を守ってくれる。

から、ちよつと好き。
邪魔だけが好き。
好きだけが邪魔。
邪魔するな！
どげどげー！

いつか、ばったり、
できないだろうか。

今までいろんな人たちと出会ってきたけれど、
まだ出会ったことのない人、
とというのがこの世界には、まだまだ、たくさんいて、
その中には出会ったらきつと楽しい、とても素敵な、
うまい酒の酌み交わせぬ、
ものすごく趣味の合う、
ずっと一緒にいても疲れないうんうん、
おんな、

そういう人たちがたくさんたくさんいるのかもしれない。
そんな人たちと、どっどこにかいて、
いつか、ばったり、期待して。

目を閉じる。
帽子とダテメガネとマスクとフードを外して、
ゆっくら、
暖かいコーヒーを飲みながら。
いつか、ばったり。
期待して。
目を閉じる。
期待して。
目を。